佐野鼎(富士出身洋学者)足跡たどる

県東部開成会など講演会

佐野鼎の足跡について解説する柳原さん＝富士市内

幕末から明治初期に活躍した富士市生まれの洋学者で、全国有数の名門である開成中・高の前身「共立学校」を創設した佐野鼎（かなえ）への知識を深めようと、県東部開成会と佐野鼎研究会は10日、講演会「富士が生んだ幕末の国際人、佐野鼎」（静岡新聞社・静岡放送後援）を同市内で開いた。

昨年、鼎の生涯に迫る歴史小説を出版したノンフィクション作家柳原三佳さんが執筆のため訪ねた全国や世界各国の旅を紹介し、足跡をたどった。

傍系の子孫に当たる柳原さんは、鼎の書籍「訪米日記」の先進的な内容に驚き、取材を始めたと執筆の経緯を語った。日米修好通商条約の批准書交換のため1860年に派遣された万延元年遣米使節に参加した際の逸話として「現地の新聞で、知性と教養が絶賛された」と紹介。一方、コレラで死没した鼎は「資料の大半が焼却されたため謎が多い」とも述べ、「富士での暮らしを知りたい」と情報提供を求めた。

駿河郷土史研究会の高田國義副会長も文献をひもとき、鼎の生家や家系図を解説した。

（富士支局・青島英治）